

日本



米国



ユーロ圏



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

債券・為替ウィークリーレポート (先進国・新興国)



ブラジル



南アフリカ



インドネシア



インド
















メキシコ



トルコ



中国





国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/24 (2/17との比較)	2/24 (2/17との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
日本 	A+	0.07% (▲0.03)		+1.7% 2016年4Q	-	米国を中心に世界的に金利低下の動きとなり、20年国債入札が堅調な結果となる中、国債利回りは低下。日銀が長期国債買い入れオペの透明性を高めるとの報道も材料視された。貿易収支では、輸入が市場予想を上回る結果。	法人企業統計やCPIなどの発表が予定される中、引き続き日銀による国債買い入れに関わる動きが注目される。需給環境と海外市場をにらみながら、国債利回りはレンジ内での推移が予想される。
	A1	 金利横ばい		 景気安定	-		
米国 	AA+	2.31% (▲0.10)	112.12円 (▲0.64%)	+1.9% 2016年4Q	0.75%	FOMC（米連邦公開市場委員会）の議事要旨公表などにより、3月利上げ観測が後退。新政権の税制改革に進展がないことなども材料視され、欧州各国の政治先行き不透明感が残る中、国債利回りは低下。米ドルは対円で下落。	トランプ大統領の議会演説やFRB（米連邦準備制度理事会）高官の講演などが注目される。また、ISM製造業景況指数などの発表を予定。欧州と中国の政治経済情勢などからも目が離せない状況。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ユーロ圏 （*） 	AAA	0.19% (▲0.12)	118.44円 (▲1.14%)	+1.7% 2016年4Q	0.00%	フランス大統領選挙を控える中、世論調査で極右・国民戦線党首のルペン党首の支持率上昇などが伝わる。引き続き各国政治への先行き不透明感が残る中、ドイツの国債利回りは低下。ユーロは対円で下落。	ギリシャ支援についての動向も注目される中、引き続きフランスやオランダ、イタリアなど各国の政治動向が注目される。また、トランプ大統領の演説など米国の政策動向からも影響を受ける環境が持続するとみられる。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示（*ユーロ圏についてはドイツの同格付を表示）。※2 10年国債利回りを表示（*ユーロ圏はドイツ国債利回り）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、米国：フェデラルファンド金利、ユーロ：主要リファイナンス金利を表示、日本は金融政策の目標が無担保コール翌日物からマネタリーベースに変更されたため非表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。



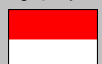

先進国② 市場概要・見通し（カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/24 (2/17との比較)	2/24 (2/17との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	1.61% (▲0.10)	85.63円 (▲0.62%)	+1.3% 2016年3Q	0.50%	CPIは市場予想を上回る内容。欧州政治情勢の先行き不透明感などにより、国債利回りは低下。原油価格が一進一退の動きとなる中、カナダドルは対円で下落。	中銀は金融政策決定会合で、景気回復度合いを探る環境で政策金利を据え置くと予想。GDP（国内総生産）の発表も予定され、NAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉や米国の政治経済動向に加え、原油価格も注目される。
	Aaa	金利上昇	金利上昇	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
オーストラリア 	AAA	2.73% (▲0.07)	86.06円 (▲0.51%)	+1.8% 2016年3Q	1.50%	中銀総裁は議会で利下げに慎重な姿勢を示した。設備投資は前期比で減少するなど経済指標がまちまちの内容となる中、国債利回りは低下。オーストラリアドルは対米ドルで上昇、対円では下落。	経常収支やGDP（国内総生産）などの経済指標公表が予定され、引き続き景気回復の度合いなどを確認する環境。また、米国や中国の政治経済動向などを受けた海外市場が注目される。
	Aaa	金利上昇	金利上昇	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	3.23% (▲0.10)	80.74円 (▲0.41%)	+3.5% 2016年3Q	1.75%	サービス業実績指数は好調な一方、生産者物価（投入価格）は伸び率が鈍化。酪農品の落札価格も前回から下落。利上げ時期に対する市場の見方が先送りされる中、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	移民数や貿易収支、住宅価格などの発表が予定されているが、中銀は利上げに慎重な姿勢を崩していないため、金融市場の動きは国内の経済指標よりも、米国の大統領議会演説など、国外要因に左右される公算。
	Aaa	金利横ばい	金利横ばい	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.67% (▲0.05)	13.41円 (▲0.83%)	+1.8% 2016年4Q	0.50%	2017年の石油関連設備投資計画は、2016年の実績見込みから減少するとの調査結果となったものの、昨年11月調査時点の2017年計画からは上方修正。ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	石油関連投資の減少に歯止めがかかるとの兆しが見られたことはプラス材料ながら、当面は力強い景気回復は期待薄。製造業PMIや小売売上高などが発表される予定だが、景況感の大きな改善には至らない見込み。
	Aaa	金利横ばい	金利横ばい	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期価格付を表示。※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国 (地域)	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/24 (2/17との比較)	2/24 (2/17との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
ブラジル 	BB	10.05% (▲0.21)	36.04円 (▲1.03%)	-2.9% 2016年3Q	12.25%	中銀は金融政策決定会合で、政策金利の0.75%引き下げを全会一致で決定。利下げを受けて、国債利回りは低下。鉄鉱石などの資源価格の調整を受けて、リアルは対米ドル、対円ともに下落。	中銀は声明で、金融緩和のペースは景気やインフレ、リスク要因などに左右されると説明。カーニバルの祝日などで国内イベントが少なく、債券・為替市場は小動きの展開を予想。金融政策決定会合の議事録発表などを予定。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	↑ 景気回復	↓ 利下げ局面		
南アフリカ 	BBB	7.91% (▲0.05)	8.66円 (+0.06%)	+0.7% 2016年3Q	7.00%	政府は2017年度予算案を発表し、財政赤字を削減する方針を示す。また同案を財務相が発表したことで、内閣改造観測が後退。財政・政治リスクの一時後退により、国債利回りは低下。ランドは対米ドル、対円ともに上昇。	予算演説でゴードン財務相は、同国経済が緩やかに回復するとの見通しを示す。一方、政治は現大統領の政権基盤の弱体化により不安定に。政治リスクの残存から債券・為替ともに上値の重い展開を予想。
	Baa2	→ 金利横ばい	↓	↓ 景気鈍化	↑ 利上げ局面		
インドネシア 	BB+	7.27% (+0.05)	0.84円 (▲0.59%)	+4.9% 2016年4Q	4.75%	主要な経済指標の発表がない中、中銀高官が追加利下げ余地がなくなっており、預金準備率の変更予定もないと言及したことを受け、国債利回りは上昇。円高から、ルピアは対円で下落。	製造業PMIやインフレ統計などの発表を予定。インフレ上昇圧力が高まれば、利下げへの期待が後退し、国債利回りは上昇しやすい地合い。海外からの投資資金流入の期待から、ルピアは底堅い推移を予想。
	Baa3	→ 金利横ばい	→	↑ 景気安定	→ 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.82% (+0.03)	1.68円 (▲0.24%)	+7.3% 2016年3Q	6.25%	中銀は金融政策決定会合の議事録を発表。インフレリスクに言及し、政策スタンスを中立的に変更。緩和観測の後退から、国債利回りは小幅上昇。インドルピーは対米ドルで上昇、対円では下落。	GDP (国内総生産) などの発表を予定。11月に実施された高額紙幣廃止の影響から減速する見通し。週末にはGST (物品・サービス税) に関する審議も控える。市場は債券・為替ともに底堅い推移を予想。
	Baa3	→ 金利横ばい	→	↑ 景気回復	↓ 利下げ局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成)

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示 (ブラジル：4年、南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年)。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高 (円安) を上向き、現地通貨安 (円高) を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。※政策金利については、ブラジル：Selicレート、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

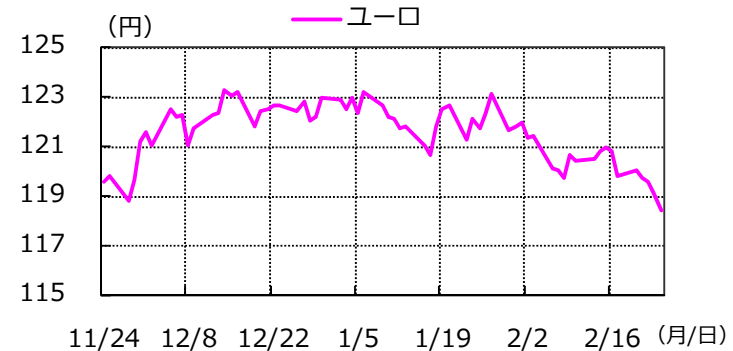
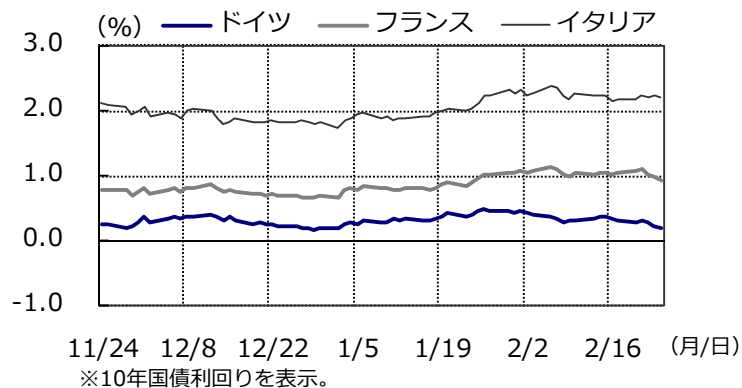
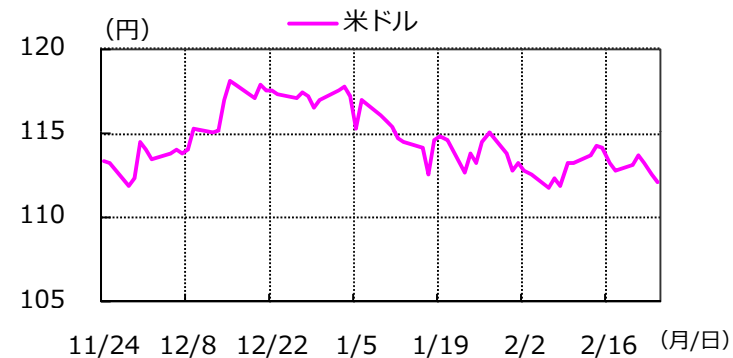
国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/24 (2/17との比較) 今後の見通し (※4)	2/24 (2/17との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
メキシコ 	A	7.05% (▲0.19)	5.63円 (+1.96%)	+2.4% 2016年4Q	6.25%	通貨委員会は通貨スワップによる為替ヘッジ制度の創設を発表。中銀による為替介入の政策手段が強化。同国市場の安定化への期待から、国債利回りは低下。ペソは対米ドル、対円ともに上昇。	金融政策決定会合の議事録では、全てのメンバーが加速するインフレのリスクに言及。ペニャニエト大統領はトランプ政権の閣僚と会談を実施するも対米関係は依然不透明感が強く、債券・為替ともに不安定な展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
トルコ 	BB+	10.99% (▲0.11)	30.92円 (▲0.33%)	-1.8% 2016年3Q	8.00%	消費者信頼感指数は市場予想を下回る結果。金融引き締め策による効果などから、リラは対米ドルで上昇した一方、市場全般の円高地合いを受けて、対円では下落。国債利回りは低下。	4月に予定される大統領権限強化の是非を問う国民投票に向け、週末に首相が賛成を促す演説を実施。一方で反対意見も根強く、目先、政治的な緊張感が高まりやすいことから、債券・為替ともに上値の重い展開を予想。
	Ba1	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
中国 	AA-	4.19% (+0.02)	16.34円 (▲0.67%)	+6.8% 2016年4Q	4.35%	主要70都市の新築住宅価格は前月比伸び率が4カ月連続で鈍化。また香港市場の人民元調達コストが低下。国債利回りは小幅上昇。香港市場の人民元は対円で下落。	製造業・非製造業PMIの発表を予定。製造業PMIが50超を維持できれば、中国景気が安定化しているとみられ、香港市場の人民元の下落は限定的と予想。また、3月に予定される全国人民代表大会も注目される。
	Aa3	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示（メキシコ：5年、トルコ：5年、中国（香港市場における中国国債の利回り）：10年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値（中国の為替は、香港市場における人民元の為替レート）を表示。※政策金利については、メキシコ：翌日物金利、トルコ：1週間物レポレート、中国：1年物貸出金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/24～2017/2/24

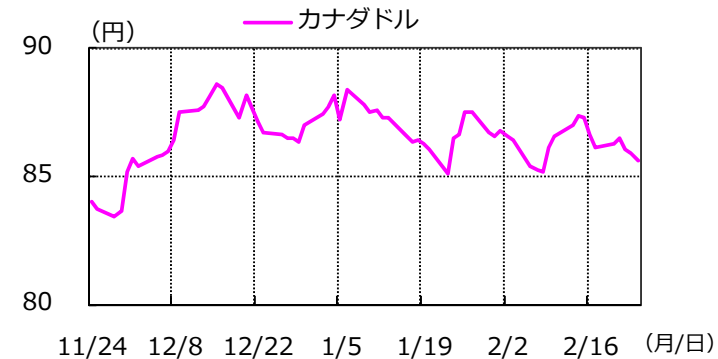
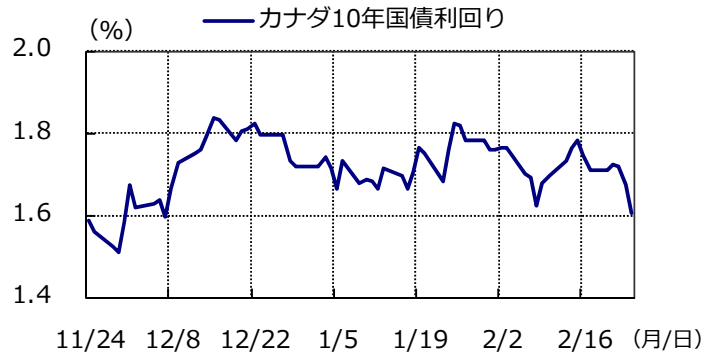


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

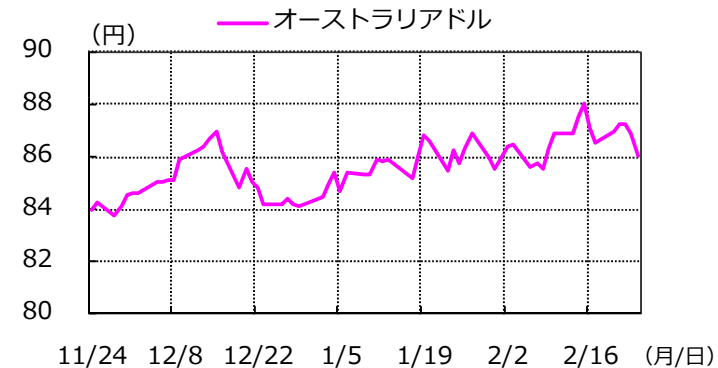
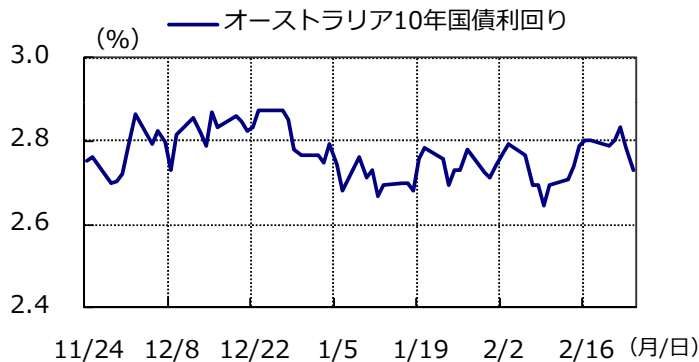
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/24～2017/2/24

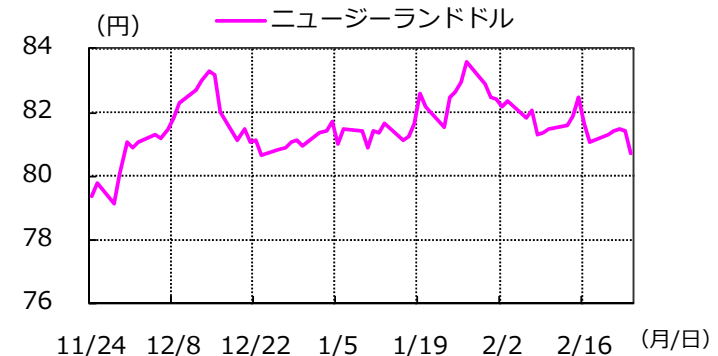
カナダ



オーストラリア



ニュージーランド

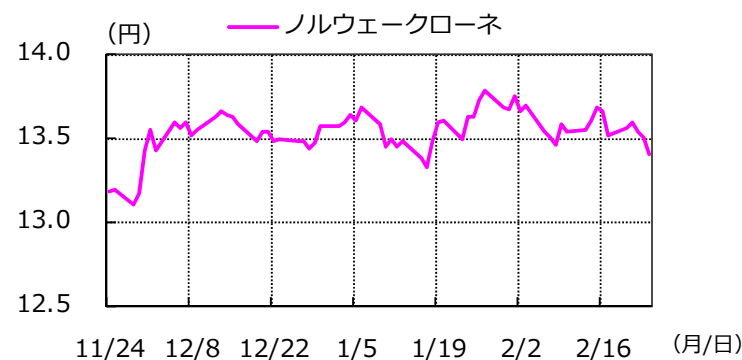
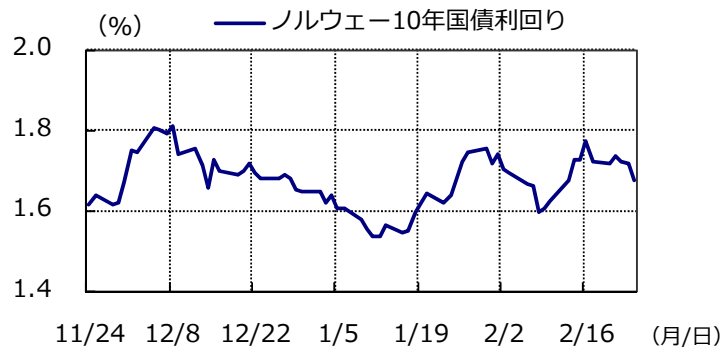


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

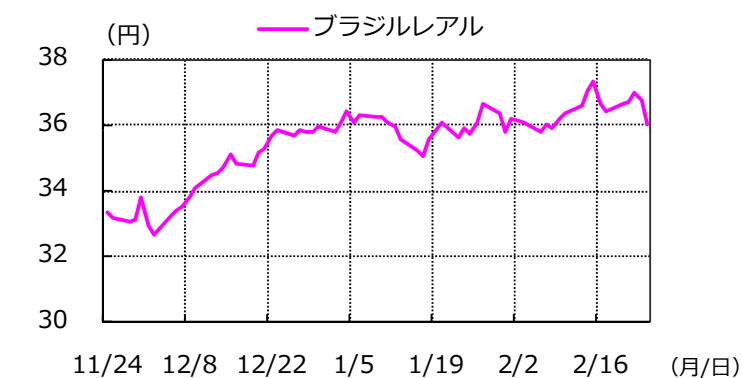
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/24～2017/2/24

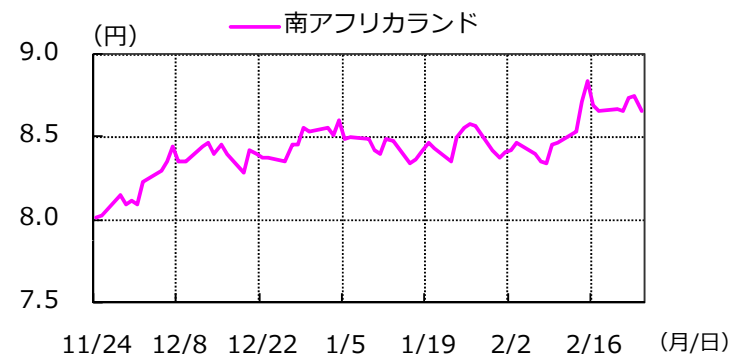
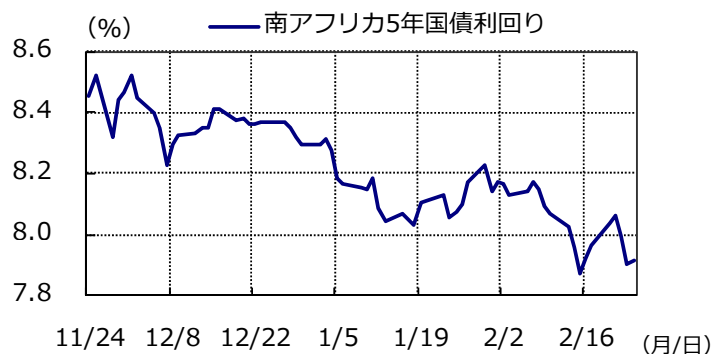
ノルウェー



ブラジル



南アフリカ

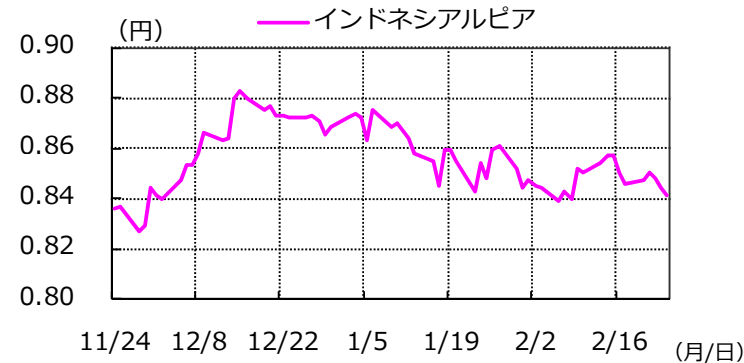
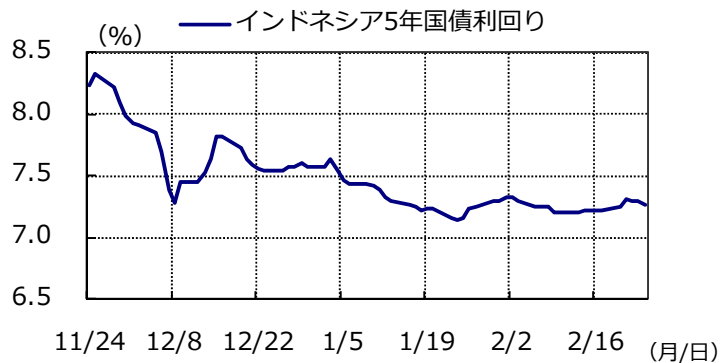


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

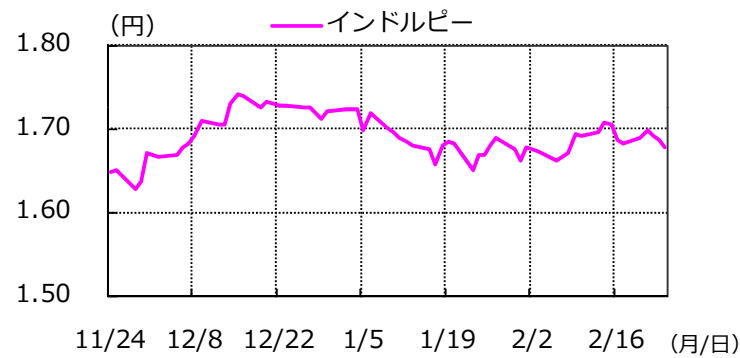
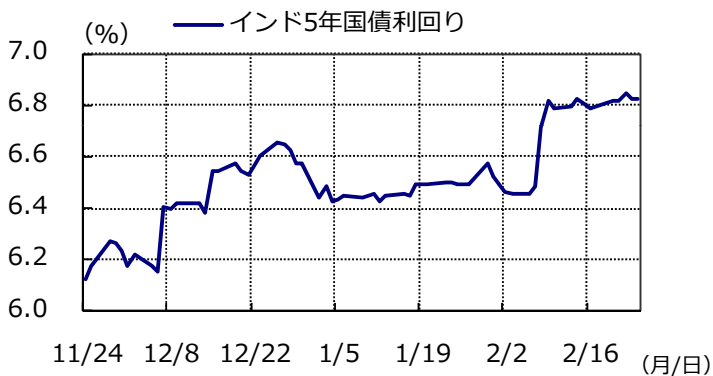
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/24～2017/2/24

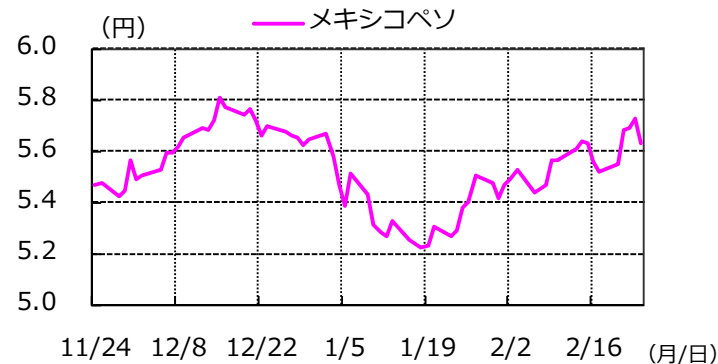
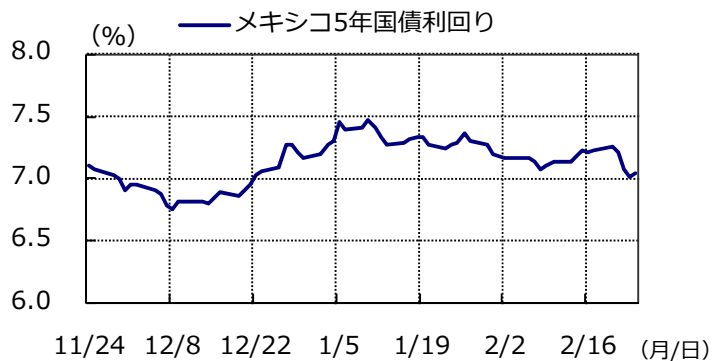
インドネシア



インド



メキシコ



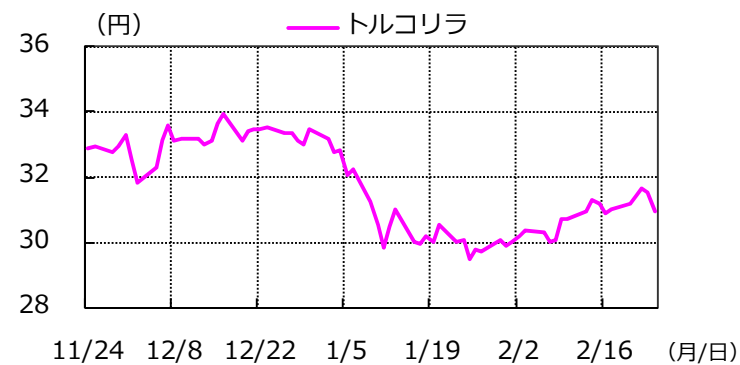
※インドネシアアルピアは100通貨単位あたりの値。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

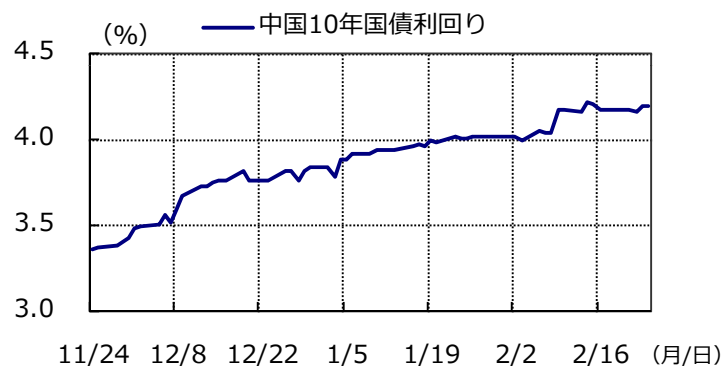
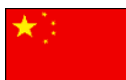
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/24～2017/2/24

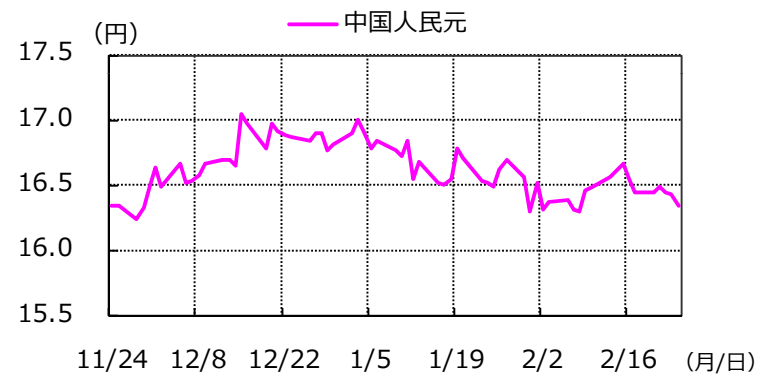
トルコ



中国



※香港市場における中国国債の利回りを表示。



※香港市場における人民幣の為替レートを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。